

# 富士養鱒場だより

第262号

令和7年11月号



静岡県水産・海洋技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

E-mail [suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp) URL <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/>

(目次) オンライン学習のための「バーチャル富士養鱒場」開設  
全国養鱒技術協議会の全国大会が本県で開催されました  
富士宮市の中学校での「にじます教室」  
富士養鱒場で「漁する女子ジャパン」の勉強会が行われました

## オンライン学習のための「バーチャル富士養鱒場」開設

当场では、水産業への理解促進や水産物の消費拡大の観点から、小中学校等で行われる居住地や農林水産業に関する学習を支援するため、出前授業や施設見学に対応し、児童生徒向けにニジマス養殖に関する講話を対面で行っています(写真)。



写真 施設見学の様子

一方、教育現場では、近年学習にタブレットやパソコンが日常的に使われるなど情報収集手段の多様化が進んでいます。そこで、児童生徒や教員の学習に利用してもらうことを念頭に、出前授業や施設見学で行っている講話を、インターネットでも閲覧できるように、動画の制作・公開をしましたので紹介します。

対面で行っている講話は30分程度ですが、インターネットで公開する場合、動画1本の時間は短い方が視聴しやすく、また、興味のある項目へアクセスしやすくなると考え、各テーマを長さ3分程度の動画にまとめた「マスオくんのニジマス養殖」シリーズを5本制作しました(表)。

動画に用いる映像は、「研究所でなければ見ることができないニジマスの姿」を意識し、一般の方があまり見る機会のない水中を泳ぐニジマスの姿や、卵や稚魚の様子、給餌シーン等を撮影して使用しました(図1)。



図1 制作動画の一場面(キャプチャ画像)

表 『マスオくんのニジマス教室』構成

	テーマ	概要
第1回	ニジマスってどんなお魚?	ニジマスの生態などの紹介
第2回	ニジマス養殖に必要なもの	ニジマス養殖に必要な3つの要素の解説
第3回	ニジマス養殖とお水	ニジマス養殖に欠かせない富士山からの水の恵みについて
第4回	ニジマスをつやす	親魚から卵を採り稚魚に育てるまでの過程の紹介
第5回	ニジマスを育てる	ニジマスに与える餌の種類や特徴と給餌の仕方などの解説

制作した動画は Youtube へアップロードし、静岡県水産・海洋技術研究所ウェブサイトの富士養鱒場ページ内に作った特設ページ「バーチャル富士養鱒場」に埋め込み、公開しました(図2)。

公開した動画を学校の授業で活用していただくため、県内全域の小中学校に「バーチャル富士養鱒場」の開設を周知しました。周知後に来場された教員の方からは「授業で利用しやすいコンテンツ」だと評価をいただき、当场に施設見学に来られた学校の中には、見学前の事前学習に動画を利用していただいたところもありました。見学当日は、動画で学んだニジマス養殖についての知識を子供達が得意気に話してくれ、制作した動画の内容が子供達に正しく伝わっていることを実感できました。また、普段話している講話の内容を事前に学習してくれましたので、基礎的な内容は簡単にすませ、普段の施設見学よりも一歩踏み込んだ話をすることができました。

また、当场に観覧に来られた方にも「バーチャル富士養鱒場」を利用してもらおうと、広報用のチラシを作製して場内に配架しました。令和7年の夏休み期間中には、場内にニジマス養殖について簡単にまとめたパネルとニジマスの卵や仔稚魚の実物を展示し、展示内容を深く理解してもらうために、関連のある動画ページのQRコードを添えました。期間中は「バーチャル富士養鱒場」の視聴回数が増加し、来場した多くの皆さんにもニジマス養殖についての理解を深めていただけたのではと思います。

今後も、「バーチャル富士養鱒場」を多くの方に利用してもらえるように広報活動を続けていきます。また、視聴された方のご意見を参考に追加の動画制作や、動画内容の改良も検討したいと思います。動画は下記 URL で公開されていますので、是非一度ご覧ください。

(永倉靖大)



図2 バーチャル富士養鱒場バナー

### 「バーチャル富士養鱒場」

URL <https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/fuji/0010/index.html>

「バーチャル富士養鱒場」へのご感想、ご意見があれば富士養鱒場までお寄せください。



## トピックス

### 全国養鱒技術協議会の全国大会が本県で開催されました

全国養鱒技術協議会は、都道府県の養鱒に関する試験研究・指導普及を行う機関を会員として昭和51年に発足した組織で、毎年1回各都道府県の職員や養鱒業者、関係する機関、団体、企業等が集まる全国大会において、活動報告や研究発表などを行っています。今回は、平成28年以

来9年振りに本県で全国大会が開催されました。日程は、令和7年7月2日からの2日間で、一昨年の山梨県大会に続き全国養鱒振興協会との共催で行われました。内水面の養鱒業関係者が集う会議ではありますが、あえて焼津市の海沿いのホテルを会場とし、駿河湾の絶景を楽しん



して、地域の特産品への理解を深めてもらうために、中学生に向けたニジマスと豚肉の講義と調理実習を行う「にじます教室」と「豚肉教室」を毎年行っています。当時は、にじます教室の講義を担当しており、本年は5校で計10回、282名の生徒にニジマスの生態や養殖方法のほか、「食」に関わる話題として、生食用として人気の大型ニジマスやニジマスの栄養等について説明しました。生徒達に馴染みがあるのは塩焼きに使われる150g程度のレギュラーサイズなので、写真で見る大型ニジマスの大きさには驚いたようです。そして、静岡県の誇る大型ニジマス「紅富士」が後日行われる調理実習で食べられると知ると、教室からは歓声が上がっていました。

後日行われた調理実習では、富士養鱒漁協の職員によって、生徒の目の前で紅富士が捌かれ、

刺身として振る舞われました。実際に目にした2kg以上もある紅富士の大きさに改めて驚き、その大きなニジマスが華麗に捌かれる様子に見入っていました。刺身の試食では、漁協職員から普段食べているサーモンとの違いについて問われると、「紅富士の方が美味しい」という嬉しい声がたくさん聞かれました。また、生徒自身もレギュラーサイズのニジマスの調理を行いました。メニューは学校によって竜田揚げやホイル焼き等様々でしたが、自分達で作ったニジマス料理を美味しく食べていました。

今回のにじます教室をきっかけに、生徒の皆さんには地域の特産品であるニジマスを好きになってもらい、将来、国内外で活躍する際には、ニジマス大使として静岡県のニジマスの魅力をPRしてくれると嬉しいです。

(永倉靖大)



にじます教室の様子

## 富士養鱒場で「漁する女子ジャパン」の勉強会が行われました

令和7年7月26日に、「漁する女子ジャパン」の勉強会が開催されました。「漁する女子ジャパン」は、東海大学海洋学部の李准教授がコーディネーターを務め、漁業における女性の地位向上や地域の活性化を目的とする団体で、会員の見識を深め、会員同士のネットワークを広げるために、定期的に勉強会が開催されています。普段は沿海地域を中心に活動されていますが、今回は趣を変え、「ニジマス養殖の現状と課題 養鱒業における女性の関わり」というテーマで、内水面の養殖業に着目いただき、24人の会員が当場に来場しました。

当日は、現在海業など沿海地域の活性化を支援する普及総括班の鈴木班長が、自身がかつて

ニジマス養殖や富士養鱒漁協と取り組んだ大型ニジマス「紅富士」のブランド化を中心に、失敗談なども含めた話題を現場目線で提供し、その後参加者とのディスカッションが行われました。また、話題提供の途中でお弁当を届けに来てくださった紅富士生産者の白糸滝養魚場の秋山夫妻にも急遽登壇してもらい、日頃の活動についてお話いただきました。妻の理恵さんは、養魚場の経営をぎゅぎゅっと締めつつ、養魚場隣接のカフェやキッチンカーでニジマス料理を提供、生産物の販売・PRに積極的に取り組まれており、今回のテーマにまさに適任でした。漁協が一丸となったブランド化の取組や養鱒業への女性の積極的な関わりは、参加者にも刺激になったのではないのでしょうか。（飯田益生）



鈴木班長による施設案内



秋山夫妻には急遽登壇していただいた

## 富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量（降水日数） ：mm（日）		湧水量：万トン/日		月	降水量（降水日数） ：mm（日）		湧水量：万トン/日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*		今年	過去平均*	今年	過去平均*
5	282 (15)	256 (12)	7.48	6.44	8	152 (10)	327 (15)	2.56	2.93
6	243 (11)	254 (15)	5.42	4.83	9	396 (12)	391 (13)	2.27	3.35
7	464 (12)	369 (17)	3.52	3.57	10	160 (16)	269 (11)	3.16	4.28

\* 前年以前の20年間平均値

## 日 誌

令和 7 年 5 月	令和 7 年 6 月	令和 7 年 7 月
9 日 業務連絡会分場長会議 (Web) 9 日 防疫対策委託事業推進委員会 (Web) 13 日 養鱒協魚病部会ミズカビ対策検討会 (Web) 15 日 普及月例会 (焼津) 19 日 GAP 担当者会議 (Web) 22 日 コクチバス駆除活動支援 (浜松) 26 日 養鱒協運営委員会 (東京) 27 日 県かん水協会総会 (沼津) 29 日 コクチバス駆除活動支援 (浜松) 30 日 地域水産試験研究振興協議会 (Web)	毎週水曜 沼津駐在 (隔週観測) 5 日 猪之頭公園運営協議会総会 (市内) 6 日 業務連絡会分場長会議 (Web) 7 日 岳水協総会 (富士) 13 日 白糸小アマゴ放流支援 (市内) 13 日 紅富士革新プロジェクト (市内) 16 日 投薬マニュアル打合せ (東京) 17 日 養鱒協魚病対策研究部会 (東京) 17 日 養鱒協養殖技術部会 (東京) 19-20 日 新規採用職員研修 (静岡) 20 日 普及月例会 (焼津) 23 日 しずおか GAP 生産者説明会 (Web) 6/23-7/4 養殖衛生管理研修 (Web) 25 日 研究調整会議水産分野会 (静岡) 26 日 富士養鱒漁協総会 (市内)	毎週水曜 沼津駐在 (隔週観測) 1 日 バイテク魚作出指導 (場内) 2-3 日 養鱒協全国大会 (焼津) 14 日 新任研究員交流会 (静岡) 10-11 日 全国水産試験場長会 内水面部会・全国湖沼河川 養殖研究部会東海北陸 ブロック会議 (岐阜) 10 日 投薬マニュアル打合せ (Web) 10 日 水産加工技術セミナー (焼津) 17 日 普及月例会 (焼津) 17 日 しずおか GAP 認証 WG (焼津) 22 日 投薬マニュアル打合せ (Web)
令和 7 年 8 月	令和 7 年 9 月	令和 7 年 10 月
毎週水曜 沼津駐在 (隔週観測) 1 日 水産防疫担当者説明会 (Web) 6 日 業務連絡会分場長会議 (Web) 6 日 天竜川天然アユ資源会 (浜松) 8 日 しずおか GAP 認証現地審査立会い (市内) 13 日 しずおか GAP 認証 WG (Web) 21 日 普及月例会 (書面) 21 日 県民の日観覧無料開放 26 日 静岡県多自然川づくり事例発表会 (静岡) 28 日 技術連絡協議会 (下田) 29 日 河川調査 (島田)	毎週水曜 沼津駐在 (隔週観測) 1 日 富士宮市地食健身食育推進事業 (市内) 2 日 バイテク魚作出指導 (場内) 2 日 投薬マニュアル打合せ (Web) 5 日 業務連絡会分場長会議 (Web) 12 日 普及月例会・海業セミナー (熱海市) 16-17 日 内水面関係研究開発推進会議 (Web) 19 日 紅富士革新プロジェクト (市内) 22 日 しずおか GAP 認証 WG (Web) 22 日 漁業士意見交換会 (焼津) 25 日 養鱒技術指導 (静岡) 29 日 投薬マニュアル打合せ (Web) 30 日 バイテク魚作出指導 (場内)	毎週水曜 沼津駐在 (隔週観測) 1 日 業務連絡会分場長会議 (Web) 1-2 日 全国湖沼河川養殖研究会大会 (Web) 2 日 東海北陸ブロック養殖衛生担当者会議 (Web) 10 日 富士宮市地食健身食育推進事業 (市内) 14 日 養鱒技術指導 (場内) 17 日 普及月例会 (焼津) 21 日 にじます祭実行委員会 (市内) 21 日 水産振興審議会 (Web) 23 日 しずおか GAP 認証 WG (Web) 28 日 技術連絡協議会 (場内) 29 日 県かん水協会役員会 (沼津) 29 日 水産用医薬品薬事監視講習会 (東京) 29 日 太平洋ブロック地域合同検討会 (東京)

### < 視察見学対応 >

5/28 焼津水産高校流通情報科 (41 名), 5/13 富士宮市立貴船小 (86 名),  
 6/19 富士宮市立大宮小 (58 名), 5/27 富士宮市立芝富小 (26 名), 加藤学園暁秀初等学校 (44 名),  
 7/26 漁する女子ジャパン (24 名), 7/29 桐蔭学園中等教育学校生物部 (4 名),  
 9/30 長泉町立南小 (128 名), 10/7 富士宮市立富士根南小 (154 名), 10/9 富士宮市立東小 (65 名),  
 10/27 富士宮市立大富士小 (148 人), 10/29 富士宮市立白糸小 (8 人), 10/31 三島市立錦田小 (84 名)